



## 余計な指導とタイミング

校長 大倉 匡仁

県が主催する人権同和教育研究大会のある分科会でのこと。幼稚園の先生が「私たちは、例えば、子供たちがフロアに広がり歌を歌うとき『きれいに並びましょう。そこ、もっと右に寄れる?』ではなく『友達とぶつからない場所を上手に見つけよう。ああ、それなら声もぶつからないね。』などと声を掛けるようにしています」と話していました。私もよく「廊下を走ってはいけません」ではなく「廊下は静かに歩こう」という肯定的な言葉での指導をしようと教職員に話しています。

先日、電車に乗ってポンジューズ工場見学に行きました。3年生とは、前回、ミュージカルを見に県民文化会館へ行きましたが、また少し成長していて、小学生らしい態度で公共交通機関の利用ができていました。友達とは小声でささやくように話し（本当は無言の約束だったそうです…）、高齢者に「どうぞ」と席を譲る子もいて、電車内はほほえましく温かな雰囲気にも包まれていました。見学を終えて公園に移動し、男子数人とベンチに座って弁当を食べました。その日は風が強く、どこからか飛んで来たのかもしれませんが、ベンチ下にはおにぎりが包んであった銀紙や見学メモの切れ端などが落ちていました。既に数人は遊具での遊びに行ってしまった後でしたが、まだ後始末をしている子が一人いました。私と目が合い、返ってきた言葉は「ぼくのじゃありません」。…遊びを中断させ、ここで食べていた子を全員呼び戻そうか…でも、ひとまず様子を見ようと思い立ってポケットに入れようとしたとき、「ぼくが持って帰ります」とその子はビニル袋を取り出し、私の手にあったごみを入れてくれたのです。もし、「誰が落としたんぞ!」と怒鳴っていたなら、きっとこの子は（また先生怒ってら）とあきれ返り、（ぼくのじゃないから関係ないよ）で終わらせていたかもしれません。窪田っ子は、温かい地域や家庭の中で、優しい心と言葉に包まれて、すくすくと育っているから、（校長先生、ごみくらいぼくが持ち帰って捨ててといてあげるよ）というこの子のように、穏やかな考え方ができるのでしょう。窪田っ子にはこんなエピソードが数えきれないほどあり、よく目にし、私の耳まで届いてきます。本当にすごいことです。

実はもう一つ。その子と目が合った瞬間、私には（この子になら伝わるな）という、教師としての勘というのか、そういう思いが沸き上がったのです。だから自分のポケットに入れる選択をしました。「子供の行動は教師自身の心を映す鏡だ」とよく言われます。（「自分のごみでなくても、ごみを拾える人はすばらしい」校長先生もそう思っているに違いない。自分はそのように行動しよう）これが以心伝心、ビビビーと伝わっていたのなら、これほどうれしいことはありません。

「自分のじゃないのに持って帰ってくれるの。ありがとう!」と肯定的な言葉を使わせてくれたその子に感謝し、それを3年生のみんなに伝えたくて、急いで学級担任に報告したのです。

## さわやか体育大会

特別支援教育主任 藤本 浩平

「さわやか体育大会」が、11月13日(木)に愛媛県武道館で行われ、たんぼぼ学級12名の子供たちが、元気いっぱい、かけっこや障害物走、玉入れなどに出場しました。ダンスでは他校の友達とも一緒に踊り、一層交流が深まりました。たんぼぼ学級の仲間同士で「頑張れ」「頑張ったね」と励ましやねぎらいの言葉を掛け合っており、それはとてもほほえましい光景でした。

あいにくの空模様でしたが、「ぴかぴか個性、たんぼぼパワー全開」で頑張った子供たちの姿に更なる成長を感じ、心は晴れて爽やかな晩秋の一日となりました。



## 松山市総合体育大会（陸上の部）

体育主任 高村 和希

10月23日（木）、松山市総合体育大会の陸上の部が行われました。児童たちは、これまでの練習の成果を発揮し、自己ベスト更新を目指して全力で競技に取り組みました。その結果、3名が県大会への出場権を獲得し、11月10日（月）の県大会でも力いっぱい競技に臨みました。仲間の応援を受けながら、それぞれが目標に向かって全力を尽くす姿はきらりと輝いていました。日々、練習を支えてくださった御家庭や地域の皆様に、心より感謝申し上げます。



## 「もっと知りたい」「調べたい」

3年部 加藤 真紀子

今、社会科では「社会的な見方・考え方を働かせて、主体的に課題を追究する」学習が行われています。本校3年部でも、子供たちが自分の目で確かめ、疑問をもち、調べ、考える活動を推進し、身近な地域の社会生活を総合的に理解するというねらいの達成に向けて取り組んでいます。

2学期には、実際にスーパーマーケットやジュース工場の見学に行きました。スーパーマーケットの学習では、「店内の売り場の工夫や働く人の役割」などに着目して見学を行いました。子供たちは「なぜいろいろな大きさに切った野菜が売られているのか」や「どのように商品を新鮮なまま届けているのか」など、自分で疑問を見付けては、積極的に店員さんに質問していました。また、ジュース工場の学習では、「買う人の願いをかなえるために、どんな努力や工夫をしているのか」という視点で課題を追究しました。工場見学で子供たちは、様子を詳しく観察したり働く人にインタビューしたりして、生産の仕組みを進んで調べるなど、多くの気づきを得ることができました。

このように体験を通じた学習を進める中で、子供たちは多様な視点を身に付け、社会的事象の特色や意味などを多角的に考えることができるようになります。今後も、「もっと知りたい」「調べたい」という主体的な学びを推進するとともに、地域社会に対する誇りと愛情、その一員としての自覚を養う体験なども大切にしながら、更に学びを深めていきたいと考えています。

## 人権参観日

人権・同和教育主任 西森 仁美

11月15日（土）は人権参観日でした。2校時は、各クラスで人権教育の視点に立った授業が行われ、一人一人の児童がいじめ問題や命の尊さについて、自分事として考えることができていました。3校時の全校集会では、初めに代表者による人権標語の発表がありました。その後、「ここをなくしたかいじゅう」の読み聞かせをしていただき、縦割り班ごとに感想を発表し合う交流活動を行いました。子供たちは、発達の段階に応じて、思いやりや優しさなどの大切さを感じ取っており、「いろいろな感情があるから楽しいのだと思う」などのすばらしい感想を述べていました。

学校では今後も、家庭や地域と連携した人権教育を推進してまいります。よろしくお願いいたします。

## 寒くなってきて（冬季に向けた生徒指導）

生徒指導主事 高村 和希

朝夕が冷え込んできて、冬の訪れを感じる頃となりました。登下校の際には、気温に合わせてジャンパーや手袋を身に付けるなどして防寒対策をお願いします。（ポケットに手を入れないよう手袋をしよう。マフラーは短く安全な巻き方をしよう。耳当ては周囲の音が聞こえにくく黄色帽子もかぶりにくいことから使用は控えよう。これらは、安全な登下校のため、数年前から共通理解いただいている内容です。御確認ください。）使い捨てカイロにも記名をお忘れなく。なお、11月からの帰宅時刻は「午後5時まで」となっています。日没が早くなりましたので、御家庭でもお子さんへの声掛けをお願いいたします。

### 《編集後記》

「先生、ばくの名前の漢字は何年生で習うん？」とクラスの子が聞いてきました。「まだ先かな」と答え、少し残念そうな顔に…。早く自分の名前の漢字をみんなに知ってほしい様子でした。ちょうどその頃、私の苗字の「西」が新しく出てきたので、「間違えたら10回練習ね!」と強めに言うと、子供たちはみんな笑っていましたが、先月行ったテストで、なんと「西」は全員正解!!大人の私でも、自分の漢字を正しく書いてもらえるとうれしいものです。好奇心に満ち、新しい漢字を知る喜びでいっぱいの子供たちの顔はキラキラしています。さあみんな、今日も気合いを入れて漢字の勉強をするぞ!（西森）



窪田小  
ホームページ